

発行所  
 財団法人 日本手芸作家連合会  
 〒160-0023  
 東京都新宿区西新宿5丁目25番13号  
 パラガイハイツ9階C室  
 電話 03-3374-3359  
 FAX 03-3374-3352

# 日々に新たななり

## ——新評議員、来期への発足——

会長 岡谷恭子

平成二十一年九月二十一日まで評議員としての役職を全うされた皆様方の任期が満了となり、来期評議員が決定いたしました。

今年度は、時ならぬ時に発生した新型インフルエンザの世界的流行により、多方面にその影響が及んだ幕明けとなりました。

そして八月三十日に行われた衆議院選に於いては政権交替という大きな歴史的転換が起こり、今後の歩みも暗中模索の中であらゆる事柄を好転させる努力が私達にも課せられてくるように思います。しかしどのような状況下におかれども、私達の生活の總てが日々発展と生甲斐、歓びに繋がる改革を目差して行かなければなりません。日常の生活は勿論、人類固有の力

ルチャーやアートの世界も更なる創造進展が求められるでしょう。

こんな時、あの「苟日新、日新、又日新」(礼記—大学)という言葉にはとても励まされたいく精神を表わすもののように思われます。

日本手芸作家連合会としましては、昨年十一月発行の機関誌でもお知らせした公益法人改制への移行がその改革の第一歩です。今後は新評議員の皆様と現理事共々、時代の要請に添えて新たな改革に取り組んで行く所存です。

会員の皆様方にも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 第187号 10月号

- ◆ 日々に新たななり
- ◆ 評議員の改選と顧問の再任について
- ◆ 第42回創作手工芸展
- ◆ 平成21年度研修講演会のご紹介
- ◆ 輝ける人々 第八回
- 刺しゅう作家 原田泰子先生
- ◆ 筆のむくままに 第十五号

### 評議員の改選について

現評議員の任期が本年9月21日で満了することに伴い、去る8月29日の理事会において寄付行為第21条に基づき評議員の改選が行なわれ、審議の結果、左記の方が新評議員に選任されました。

#### 「新評議員(再任)」

- 相澤ふみ江 浅野啓子 岩田睦子
  - 内田洋子 岡小枝子 岡光静乃
  - 川崎厚子 木嶋真理子 嶋あい子
  - 多崎次郎 常森美知子 富澤千寿
  - 富田光枝 長井克子 中本貴子
  - 長岡フミ子 名取佳子 根津美奈
  - 本間光都子 見波イサオ 本橋雅恵
  - 森田富士子 本多浩一 森本登貴子 以上24名
- (任期・平成21年9月22日〜平成23年9月21日)

### 顧問の再任について

現顧問の任期が本年9月21日で満了するにあたり、去る8月29日の理事会において審議の結果、再任が了承されたため、寄付行為第

23条に則り会長から委嘱が行われることになりました。

#### 「新顧問(再任)」

- 森川敏雄 滝本晴男 以上2名
- (任期・平成21年9月22日〜平成22年9月21日)

### 第42回創作手工芸展

東京都美術館は来年度からリニューアル工事に入るため、二年間休館となります。そこで今年度は現美術館での最後の展示会となります。皆様の作品を盛大に展示したく、実行委員一同皆様の御応募をお待ちしております。

#### ●デモンストレーション

東京都美術館が関心を寄せる「デモンストレーション」では、「動く展示」として多岐に渡る手工芸界の分野を会場で実演して紹介しています。当会の「手工芸教育の振興と社会生活に於ける生涯学習の発展達成の為に寄与する」という趣旨を具現化する一環として、只今参加者を募集中です。詳細は事務局までお問い合わせください。

#### ●学生枠の設置

創作手工芸展の公募に従来の「会員」「一般」に加え、今年度は

「学生」を設置しました。応募しやすいようにと費用を優遇する以外は全て一般と変わらず、厳正なる審査を受けていただきます。初の試みですが、学生の研鑽の目標となり、今後創作手工芸展に若い作品が並ぶことを実行委員一同期待してお待ちしております。

### ●ハンドクラフト展

創作手工芸展の作品は「未発表の手工芸作品」ですが、併設の「ハンドクラフト展」では「国内外の美術展において賞を得た作品」や「手工芸作家の愛蔵品」を展示しています。作品規格など創作手工芸展と異なる点もありますので、詳細はハンドクラフトコレクション展の募集要項をご参照ください。

### ●チャリティ

「社会福祉への協力」事業の一環として今年もNHK厚生文化事業団の「助け合い運動」に協賛し、チャリティ物品販売を行います。会場には、全国の会員・作家が寄付してくださった高い技術の作品が並ぶ予定です。

恒例となったチャリティ販売ですが、作品のジャンルはまだまだ狭いのが実情です。幅広い作家のご協力をどうぞ宜しくお願いします。

実行委員長 片山理恵子

## 平成二十一年度研修講演会のご紹介

講師 三田村有純先生を語る

会長 岡谷恭子

今年も芸術の秋が訪れました。日本手芸作家連合会が行っている事業の中で創作手工芸展と並び称されるものに研修会があります。

今年度は自国の文化と共に他国の手工芸界にも触れて見聞を広めることを目的に研修旅行を計画しましたが、新型インフルエンザの流行で中止となり、国内にて意義ある講演会を開催する運びとなりました。

ここに講演をお引き受け下さいました講師、東京芸術大学美術学部教授、江戸蒔絵赤塚派十代を継ぎ、現在世界的にご活躍をなさっていらっしゃる三田村有純先生をご紹介します。

三田村先生と私の出会いは、昨年の秋に銀座画廊で開かれた「手の掌の宇宙展」を拝見した事がきっかけでした。この展覧会には先生を含む十名の漆芸作家の方々の作品が展示されていました。夫々の作品はどれも力作揃いで、伝統と創造から生み出された見事な作品ばかりでしたが、ふと或る作品の前に来た時、私は思わずそこに立ち尽くしてしまいました。そこに

は一人の作家の方の作品が数点

並んでいて、それは一つのシリーズによって構成されて、それに因むいくつかの作品と思われましたが、例えばその中の一作品ですが岩壁のような所に直線的な教会の光塔がすつと建ち、あたかも中から聖歌隊の美しい賛美曲が流れてくるような厳肅さと神々しさに満ちあふれた静と動の世界が形に造られ、その天空には三日月が冴えざえと輝いていました。それは正に天地創造の完成した瞬間を漆芸という技術によって創り上げたようなスケールの大きい作品で、私は思わずそこに釘付けになってしまったのです。

その折も折、会場に入ってかられた男性がおられました。そしてご挨拶申し上げた方が三田村有純先生でいらっしゃったのです。勿論初対面の出会いです。

ご挨拶を交わした時、忘れもしません。「何でも協力しますよ」とおっしゃって下さったお言葉に勇気を得てこの度、研修会の講演をお願いした次第です。

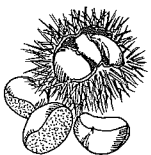
三田村先生の家系は、江戸蒔絵

赤塚派(三田村系)を代表継承していらっしゃる由緒ある家系で、先生は現在その十代目を継承なさり、創作活動並びに学生及び後輩の指導に当たっていらっしゃいます。国内のみならず他国、例えばベルギー王立H・I・F・A客員研究員としてヨーロッパ十一ヶ国の工芸のご研究をなさり、また中央美術学院客員教授としてもご活躍中いらっしゃいます。その他沢山の役職にも就いておいでになり、著書・DVD等もございます。

この度の講演の演題は「創造する心」です。前半はどのようなジャンルの作家の皆様にも共通するお話で、後半は漆芸作品について興味深いお話が映像を通して伺えるとお話したので、皆様と共に楽しく充実した時を過ごすことが出来ると思います。どうかご期待下さい。

尚、講演会後、懇親会も予定されていますので、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

(別に研修会の詳細は機関誌と同時に郵送申し上げます。申し込み方法も明記いたしましたのでよろしくご査収下さい。)



輝ける人々 第八回

今回は本会の各教室訪問として刺しゅう作家でいらっしゃる原田泰子先生に原稿をお願いいたしました。

あと半年ばかりで八十歳大台に乗る事になる私です。

振り返れば、子供の頃から針や布で遊んでいた私は、ずっと布・糸・針で、楽しんでこの年齢になっ

てしまいました。四十三歳で亡くなった母は、手

仕事の大好きな人でした。見よう見まねから始まった私流刺しゅうでしたが、父の転勤地ここ広島で、故野間幸子先生、故小田切東江先生、ご姉妹の先生にお教えを頂き、世界の様々な刺しゅうの技法を学びました。



月曜クラス

また、大妻コタカ先生が設立された御会、日本手芸作家連合会に入会、四十年が経ちました。あつと言う間に手芸人生は半世紀を越えましたが、その間多くの方との出会いがありました。四十年代半は、鈴峯女子短大の故石谷秀子教授のお誘いで十二年間、非常勤講師をさせて頂き、その間、私は学生さんの中学校教員免許取得に必要な科目の研究に励む事となりました。多くの若い世代の素晴らしい感覚に触れた事は楽しい大切な思い出です。

刺しゅうの技法は、布目を数え拾って制作するものと、自由に糸を刺して制作するものとに大別されます。それにそれぞれの国、地方の気象風土に合った色々な仕方が生まれてきています。私達はそ

の基礎的技法を学び、その基礎は大切にしながら、それをアレンジしたり、組み合わせたりして使わなければならぬと思います。

私の家に集まって一日中刺しゅうを楽しんでいるグループ（「なづな」と称しています）は月曜クラスと土曜クラスがあり、最高齢は九十三歳、次が八十五歳、殆どが七十歳代、六十歳代、皆で一緒に歳を重ねてきました。希少価値の五十歳代の方は、皆さんのお世話を積極的にして下さいます。グループのコンセプトは、一年に一人一点は独創の作品を創ること。そして皆の「いつもいつも刺しゅうをしていたい病」には、気楽に真似ても良い見本的なものを私が作っておくこともあります。



土曜クラス

「そよ風にさわられて——」

広島原田教室 原田泰子作



それぞれの作品は日頃の自分の思いを膨らませ、「こんな事を表現してみよう。」そこから歩き始めます。素材選び、画面構成、技法、色彩、一面苦しい作業ながらもやはり楽しんでるのが本音だと思います。

各々の創作作品は次第に意欲的になり、最近では毎年数点を創作手芸展に出展、文部科学大臣賞をはじめ、いろいろと素晴らしい賞を頂き、皆で喜んでおります。しかし、その事は、楽しく励んだ事の結果であり、「刺しゅう大好き」がすべての基本だと思います。

私の年齢も大きい節目にきて、今、言えることは、「大好きな事があって本当に良かった。」と言うことです。これはグループ皆の合言葉でもあります。

これからも皆で「楽しい創作」を続けていきたいと思っております。

原田 泰子

筆のむくままに

第十五号

—— 芸術は人を救う

木嶋 眞理子

彼の憂いを漂わせるその存在に  
 気にするようになったのはいつた  
 いいつの頃からだったのだろう。  
 彼は今 スペイン マドリッドで  
 静かに眠っている。

彼はコスモポリタンだった。ベ  
 ルギー生まれだが、祖父はオー  
 トリア人。彼は幼くして父親を亡  
 くした。しかもスペイン人の母親  
 は病気の為祖国に帰ったまま。両  
 親を知らずに育ったのだ。そんな  
 彼も青年になってスペインへ渡っ  
 た。しかし母の病はかなり進行し  
 て既に息子を知る事すらできなく  
 なっていた。彼は言葉も通じない  
 異国で暮らすこととなった。

彼には祖父から受け継いだ大切  
 な仕事があった。彼は仕事にまじ  
 めであり謙虚だった。しかしライ  
 バルも多かったようだ。私はフラ  
 ンス パリへ彼のライバルに会い  
 に行ったことがある。彼のライバ  
 ルはダンディだった。流行りの着  
 こなしが似合っていた。しかし私  
 にはやはりまじめな彼のほうが好  
 みだった。誠実に生きる人の方が  
 安心。

彼はライバルと手を組んだ仕事

上の重任を攻めた。それはあって  
 はならない「ローマの略奪」決定  
 的な誤算だった。それは決して彼  
 だけのせいではなかったけれど。  
 だが彼はその失敗を後で大きな功  
 績として償ったと私は思っている。



カール5世

彼の名前はカール五世。神聖ロー  
 マ帝国 皇帝。中世最後の騎士と  
 も言われている。一五〇〇年に生  
 まれた。時代は既にキリスト教を  
 軸とする神聖ローマ帝国を中心  
 動く時代ではなかった。ヨーロッ  
 パはキリスト教の分裂が始まって  
 いたので。フランスではライバル

フランソワ一世が異教のトルコ  
 と同盟を結んでいた。フランソワ  
 一世は肖像画でイスラムから伝わ  
 る黄金の刺繍が施されたジャケッ  
 トを身に付けていた。甲冑を見に  
 つけたカール五世の肖像画とは余  
 りにも時代が違う。イギリスのヘ  
 ンリー八世の肖像画も同じように  
 アラベスク模様の黄金の刺繍だっ  
 た。流行のジャケットを着るのが  
 当時のダンディズム。

その頃ヨーロッパ全体が一つの

宗教にまとまる事が出来なくなっ  
 てきていた。ローマカトリックに対  
 抗してルターが提唱するプロテスタ  
 ントがヴァチカンの存在そのものを  
 否定するようになったのだ。カール  
 五世はヨーロッパがまとまる為に  
 双方の話し合いが必要と考え懸命  
 に時代と戦った。その為にローマ  
 へも兵を出さざるを得なかった。

最後に彼が提案したのはトリエ  
 ント公会議。カトリックの教義を見  
 直し新しい時代に合う教義を提唱  
 すること。この教義からヨーロッ  
 パは芸術が時代の価値を見出すこと  
 を学んだ。それは彼が一生を戦いに  
 捧げ最後に見つけ出した答えだった。  
 彼は晩年甲冑の鎧を脱いでスベ  
 イン マドリッドで静かに余生を  
 過ごした。「芸術は人を救う」今  
 では当たり前のようにだけどこの言  
 葉を生み出す為に彼は一生を捧げ  
 たのだ。

ヨーロッパの芸術が宗教と共に  
 再現されるのはこのトリエント公  
 会議によって提唱された為と言わ  
 れている。南ドイツ オーストリ



フランソワ1世

アでシェーネアルバイテン(美し  
 い手仕事)が盛んに修道院で作ら  
 れるようになったのもこの会議が  
 きっかけだった。

その後クロスター(修道院)ア  
 ルバイテン(手仕事)として閉鎖  
 的になってしまったが。純金銀の  
 一本の金属が生み出す様々な植物  
 はこの地域に限って独自の発展を  
 遂げていった。フランスやイギリ  
 スでは刺繍として使っていた純金  
 銀の金属だがこの地域だけは立体  
 的な植物を作る技術が修道院の中  
 で芸術として開花した。「植物が  
 持つ生命力に人は願いを託し」手  
 によって生み出される芸術・「手  
 芸」にその希望を託した。  
 カール五世 あなたの提唱した  
 会議は見事に今でも生きているの  
 です。

(財)日本手芸作家連合会事務局  
 電話番号

03(33374)3359

ファックス番号

03(33374)3352

メールアドレス

info@syugei-sakka.jp

URL

http://www.syugei-sakka.jp

郵便振替口座番号

00100・5・85006